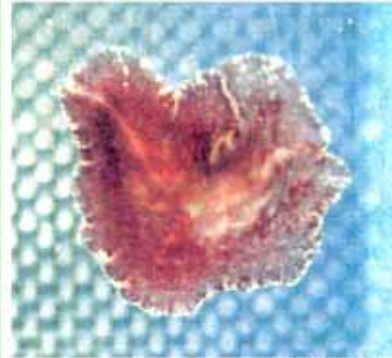


ベニクラゲムシ



まるでアメーバのようなベニクラゲムシ
(水槽番号2208)

泳げないクシクラゲ

ベニクラゲムシという名前の種類がある。このベニクラゲムシは普段触手を伸ばさないが、少し手で触れてやると糸状の触手が伸びてくる。面白いことに、ベニクラゲムシには、この動物門の特徴である櫛板がない。
(京都大学助教)

ベニクラゲムシのように身近なところにもまだまだ皆さんが見たことのないような生物がたくさんいる。海に行ったときには、そういった生き物に目を向けてみるのも一興だろう。
(京都大学助教)

独自に有櫛(ゆうじ)の動物門というグループに属している。何にでも例外があるもので、泳がないクシクラゲもいる。この仲間には他のクシクラゲ(田形や楕円、だえん)形、また蓆状のものもいる。とは異なった形をしている。岩などにべったりと張り付き、はい回って生活している。ヒラムシ(フナナリアの仲間である)という別の動物によく似ているが、細長い糸状の触手を2本伸ばしているので区別がつく。

白浜水族館に展示しているのは、大きいものでも体長2センチほどしかない。見つけにくい。しかし、慣れてくると、夏季には岩場なら紀南のどこの海岸でもすくに見つけられる。水族館ではろ過槽にも入り込んで勝手に繁殖している。しかも、ほっておくと分裂してどんどん増殖していく。すべて同じ遺伝子を持ったクローンである。

水族館へ行こう!

京都大学白浜水族館

皆さんはクシクラゲという動物を知っているだろうか。「クラゲ」という名前が示すように、透明なゼリー質の体で海中を漂っている。ミスクラゲなど一般的なクラゲと

それなりに容形は似ているが、決定的に違う点がある。それは、毒針を持っていないのである。その代わり、櫛板(くしばん)という櫛毛が付いておりそれによって遊泳する。かつてはクラゲ類とクシクラゲ類は腔腸動物門(こうちようぶつもん)として一緒に仲間とされていたが、現在はクラゲ類が刺胞動物門というグループに属し、クシクラゲ類は

まるでアメーバのようなベニクラゲムシ
(水槽番号2208)